

災害時、ドローンで物資運搬 各務原と関市が実証実験



雨が降る中、各務原市に向けて飛び立ったドローン。関市追間、中日航空専門学校

ドローンの空路開拓を手がける「クロスステックフ

ィールドジャパン」(各務原市)と連携協定を締結している同市、関市は27日、災害時を想定した物流用ドローンによる飛行実証実験を行った。自治体をまたいだ物流用ドローンの実証実験は全国初。飲料水12リットルを積んだドローンは、雨が降りしきる中、中日航空専門学校(関市追間)から各務原市テクノプラザ(各務原

市)までの約6・2キロを飛んだ。

空路を活用して災害時の物資運搬に役立てようと、同社が両市に働きかけ、ROBOZ(ロボッツ、恵那市)が全面協力した。ドローンは世界最大の中国企業DJI製の物流用機体「フライカート30」。全長2・8メートルで、最大積載量は30キロ、1回の航続距離は最長16キロ。自動航行し、墜落防止のパラシュートを備えている。

同専門学校と同プラザをオンラインでつないで出発式が開かれ、クロスステックフィールドジャパンの平野祐也社長や山下清司関市長、浅野健司各務原市長、同専門学校航空ロボティクス科の生徒ら計約200人が出席。カウントダウンの合図とともに、奥長良川名水(関市)の「高賀の森水500リットル入りペットボトル24本(約12リットル)を積んだドローンが各務原市に向けて出発。トラブルなく約12分後に同プラザに到着し、両会場から大きな拍手が湧き起こった。

今後実証実験を重ね、物流用ドローンの実用性を高める方針。平野社長は「雨が降ったことで良い実験日和となり、大きな第一歩を踏み出すことができた。今後もう少しづつできることを増やし、日本の空をつなぐ努力をしていきたい」と語った。

(桂川景)